

建設経済委員会 行政視察調査報告書

- 1 視察日 2019年5月15日（水）～17日（金）
- 2 視察先
調査事項
- 宮城県大崎市
・水道ビジョン・水道経営戦略について
 - 宮城県栗原市
・移住定住施策について
 - 岩手県花巻市
・観光振興の取り組みについて
- 3 視察者
- | | |
|-------|--------------|
| 委員長 | 西田真 |
| 副委員長 | 福田嗣久 |
| 委員 | 石津一美 |
| 委員 | 伊藤仁 |
| 委員 | 岡本昭治 |
| 委員 | 奥村忠俊 |
| 委員 | 嶋崎宏之 |
| 委員 | 田中藤一郎 |
| 当 局 | 米田真一（上下水道部長） |
| 議会事務局 | 小林昌弘 |



大崎市 中川水道部長のあいさつ



栗原市企画課 鈴木係長の説明を受ける



栗原市議場にて



花巻市議会 小原議長のあいさつ

日 時	2019年5月15日(水) 午後3時30分～午後5時00分
視 察 先	宮城県大崎市
調査項目	水道ビジョン・水道経営戦略について
調査内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 水道ビジョン策定の趣旨と概要について 2 水道事業経営戦略策定の趣旨と概要について 3 「水道ビジョン」と「水道事業経営戦略」との関係性と位置づけについて 4 東日本大震災における水道事業の被災状況と復旧までの道のりについて 5 今後の給水人口と給水量の見通しについて 6 水道施設等の更新計画について 7 民間業者へ業務委託している部分とその考え方について 8 水道料金の収納方法とその効果について (例: コンビニ納付→収納率UP)
所 感	<p>【水道ビジョン策定の趣旨と概要】 これまでの「大崎市水道事業基本計画」の理念等を継承し、新たに、1上水道事業と7簡易水道事業に係る水道事業全体の長期計画(平成23年度～平成33年度)として、また水道事業の最上位計画として策定したものの。</p> <p>【水道事業経営戦略の趣旨と概要】 水道ビジョンとアセットマネジメントの実現に向け、より具体的な経営の取り組みと財政収支の見通しを明らかにするため、計画期間を10年間として策定したものの。</p> <p>【「水道ビジョン」と「水道事業経営戦略」との関係性と位置づけ】 水道ビジョンは水道事業の最上位計画に位置づけしており、ビジョン実現のための6つの大きな柱となる方針を、経営戦略でも経営基本方針に掲げ計画を推進すること。</p> <p>【東日本大震災における水道事業の被災状況と復旧までの道のり】 地震により、送水・配水・給水管が破損し、給水区域の広範囲が断水となり、通水するまで最長14日間を要した。</p> <p>【今後の給水人口と給水量の見通し】 令和7年(予測値): 給水戸数 52,220戸、1日平均給水量 37,506 m³</p> <p>【水道施設等の更新計画】 令和元年～40年(40年間) @600百万円/年 基幹管路 L=92km 事業費 161億円 @402.5百万円/年 配水支管 L=120km 事業費 79億円 @197.5百万円/年</p> <p>【民間業者へ業務委託している部分とその考え方】 平成28年4月から包括業務委託を開始。窓口を一本化することで、市民の利便性の向上とサービスの充実が図られている。</p> <p>【水道料金の収納方法】 窓口、銀行振込、郵便振込、コンビニエンスストア、口座振替。収納率 99.8%。</p> <p>大崎市の水道は、豊岡市の約1.5倍の事業規模で、給水量の2/3は県営水道からの受水となっている。</p> <p>料金徴収や施設管理などを包括業務委託されて3年経過し、個別委託との違いで感じる点は、関連する業務や問題解決について、市が介入しなくても直接業者間でのやり取りが出来るので事務処理が効率的になり、市民からの問い合わせも窓口が一本化しているためサービス向上に繋がっている。本市も、市民の利便性の向上をさらに研究していくことが重要と感じた。</p>

日 時	2019年5月16日(木) 午前9時30分～午前11時30分
視 察 先	宮城県栗原市
調査項目	移住定住施策について
調査内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 移住・定住施策の概要と制定に至る背景について 2 移住定住において、もっとも力を入れている施策について 3 「2019年版第7回住みたい田舎ベストランキング」(宝島社)で全国9位、東北地方1位となった要因について 4 体験移住プロジェクトで、よしもととコラボするに至った背景とプロジェクト内容、またその効果について 5 主な産業とその構成について
所 感	<p>【移住・定住施策の概要と制定に至る背景】 2013年(H25年)から移住定住の推進事業を重点プロジェクトに位置づけ、移住定住総合支援事業等各種事業を展開している。</p> <p>【移住定住において、もっとも力を入れている施策】 「東京くりはらオフィス」、首都圏における栗原オリジナルな人の流れを創るために、2019年5月、日本橋に開設。交流・移住体験ツアーの開催。</p> <p>【「2019年版第7回住みたい田舎ベストランキング」(宝島社)で全国9位、東北地方1位となった要因】 豊かな自然環境が大きく評価されたほか、充実した子育て支援や交通アクセスにおける利便性が評価された。また、行政における相談窓口スタッフと、先輩移住者の皆さん(移住定住コンシェルジュ)との官民連携のサポート体制が評価された。</p> <p>【体験移住プロジェクトで、(株)よしもとクリエイティブエージェンシーとコラボするに至った背景とプロジェクト内容、またその効果】 このプロジェクトは、2015年に福井県鯖江市が行った「ゆるい移住」事業をモデルに、栗原市が実験的に行った体験移住プロジェクト。栗原のことや地方移住に興味がなくともOK、体験移住して何をするのか決めていなくてもOK、家賃無料なのでとりあえず気軽に生活してみしてほしい。(株)よしもとクリエイティブエージェンシーとコラボして、みんなで一緒におもしろいことをゆるく模索しましょう、という取り組み。 移住定住推進事業として2017年93人の移住者実績。</p> <p>【主な産業とその構成】 産業人口では、男性は「製造業」「農業」「建設業」の順に従事者数が多く、女性は、「医療、福祉」「製造業」「卸売業、小売業」の順に従事者数が増えている。</p> <p>栗原市は、移住・子育て支援や自然環境、交通アクセス等が評価され、「住みたい田舎」ベストランキング2019東北エリア総合1位、また全国9位にランクイン。</p> <p>積極的に推進し成果も上がっている施策内容は、移住を考えている方が、移住がスムーズになるようにそのプロセスを優しく説明している。知って得する支援制度等々多岐にわたり、目的とする移住・定住も、2016年度から2018年度までの3年間で228人と成果も上がっている。特に、弱者に対する政策をきちんととらないと、若いお母さんには選んでもらえないと言われる時代にあって、施策の内容は勿論ではあるが、自治体の姿勢がますます重要となり、栗原市で研修した内容を今後の豊岡市の市政に生かせるよう、取り組んでいきたい。</p>

日 時	2019年5月16日（木） 午後3時00分～午後5時00分
視 察 先	岩手県花巻市
調査項目	観光振興の取り組みについて
調査内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 花巻市における観光資源について 2 過去5年間ににおける観光客入込数の推移について 3 2のうち、外国人観光客の割合について 4 過去5年間ににおけるいわて花巻空港の利用者数の推移について 5 「いわて花巻空港から台湾に行こう！」ツアーの利用状況について 6 花巻市団体旅行貸切バスツアー支援事業補助金の概要とその効果について
所 感	<p>【花巻市における観光資源】 奥羽山脈の溪谷沿いに湧き出る花巻温泉郷があり、また、宮沢賢治記念館、花巻新渡戸記念館、高村山荘・高村光太郎記念館、萬鉄五郎記念美術館など世界的に知られる先人を偲ぶ記念館も多くある。また、早池峰神楽や鹿踊りなどの郷土芸能、日本三大杜氏のひとつ南部杜氏、さき織り、ホームスパン等の優れた技術が多く伝えられている。</p> <p>【過去5年間ににおける観光客入込数（地域別、個人・団体別）の推移】 H26年2,165千人、H27年2,176人、H28年2,227千人、H29年2,140千人、H30年2,012千人と、H28年をピークに国内旅行者数は減少傾向。H30年の観光客は県外81%、県内19%。家族旅行82%、友人との旅行10%、その他4%、一人旅3%、職場等団体旅行1%。</p> <p>【過去5年間ににおける観光客入込数の内、外国人観光客の割合】 H26年0.67%、H27年0.9%、H28年1.0%、H29年2.1%、H30年2.5%。国別では、台湾80%、香港8%、中国3%、その他9%。</p> <p>【過去5年間ににおけるいわて花巻空港の利用者数の推移】 H26年396,966人、H27年399,427人、H28年417,130人、H29年440,749人、H30年481,859人。</p> <p>【「いわて花巻空港から台湾に行こう！」ツアーの利用状況】 平成30年8月1日より毎週水曜・土曜を出発日とする、台湾への定期便が運航。利用実績18,090人。</p> <p>【花巻市団体旅行貸切バスツアー支援事業補助金の概要とその効果】 岩手県外を発着地とし往復ともに貸切バスを利用する20名以上の団体ツアー、及び海外を発着地として貸切バスを利用する団体ツアー対し、花巻市内に宿泊することを条件に1台あたり30,000円を助成。 平成30年度実績、（国内発着）100台、ツアー人数3,525人、（海外発着）392台、ツアー人数11,719人。</p> <p>花巻市が観光地として隆盛している理由は、温泉、偉人等の観光資源、誘客に向けた団体貸し切りバスツアー支援事業等の積極的な取り組みが上げられる。観光客入り込み数も毎年200万人から220万人、平成30年度のインバウンド客は約5万人で毎年増加している。</p> <p>花巻市を取り巻く地理的条件（観光資源）と豊岡市を取り巻く地理的条件（観光資源）、特に温泉地の街並みや個々の宿泊施設の大きさに違いがあるため、花巻市で実施されている団体貸し切りバスツアー支援事業が、城崎温泉を中心とした豊岡市の観光にそのまま実施できるかは一考の余地があると思われるが、積極的な検討が望まれる事業と感じた。</p>